

第9週

質問 26. 「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」と唱える、信仰告白の意味は何ですか。

答え I 神は、私たちの主・キリストの永遠の父であり、その方は無から天と地と、その中のすべてを造られ、⁰¹ご自身の経綸と摂理によって保たせ支配なさる方です。⁰²その御子、キリストのゆえに、私の神、また私の父です。⁰³私は全的に神を頼り、神が私の靈魂と体のために必要すべてを供給してくださることを疑ったりしません。たとえ涙の谷間で起こる悪までも、私の益となるように変えてくださることを信じます。⁰⁴なぜなら、全能の神はそのことがおできになるばかりか、⁰⁵真実な父としてそれを望んでもおられるからです。⁰⁶

01 創1-2章、出20:11、ヨブ38-39章、詩33:6、イザヤ44:24、使徒4:24；14:15

02 詩104:27-30、マタイ6:30、10:29、エペソ1:11.

03 ヨハネ1:12-13、ロマ8:15-16、ガラテヤ4:4-7、エペソ1:5

04 ロマ8:28.

05 創18:14、ロマ8:31-39.

06 マタイ6:32-33、7:9-11.

① 父と呼べるのは(ヨハネ 17:3) 三位の中で恵みを分配されることに従ってのことです。また、その品性にあって王権を実行なさり、その栄光を現せるからです。この時、子は、父の栄光を現し(自分自身の栄光のために働かない)、聖霊は、父と子の大使として行われます(ヨハネ 16:13-15)。

それによって、父は、すべてのことの第一原因 **first cause** として(1 コリント 8:6)、恵みをあふれるようにされる方(Ⅱコリント 9:8)、罪人に救いをお与えになる方と(ヨハネ 17:11) 理解できます。従って私たちは、恵みの働きについて言及するとき、最終的に父に栄光を帰さなければなりません(ロマ 11:33-36)。すべての罪人たちの救いが完成される時、その国は、父にお帰しにになります(1 コリント 15:24、28)。

② 使徒信条では、父について一番先に、天地の造り主の神と言及します。その次に、全能の神に対する言及が出ます。父なる神は、すべてを創造しました。天と地、そして、その中にあるすべてを造られました。従って神なくしては存在するのは何もないです(コロサイ 1:16)。神が造られた世界は、私たちの弱さのゆえに、その限界をすべて知ることができないほど広大です。それにも関わらず、世は無限ではないです。これはただ、神によって造られたものだからです。

何もない無からすべてが造られました。そしてこのすべては、神の強力な言葉によって造られました。信仰によって私たちは、世界が神の言葉によって造られたことを理解するようになります(ヘブル 11:3)。創造は、全能の神の力の御業です。それゆえ、私たち皆は、父なる神を、全能の創造主・神と告白すべきです。神は創造し、被造物を祝福されたことで、それらは実を結ぶようになりました(創 1:11-12、22、28)。

③ 贖い契約は、父から施されます。神は、キリストにあつて永遠の目的を持ち、ご自身の知恵を現しました（エペソ 3:11）。選ばれた罪人と恵み契約を立てました（エレミヤ 33:34、Ⅱコリント 6:16-18）。御子と御霊と関連して救いの経綸を成し遂げる方も父です。それゆえ神は、キリストのゆえにまことの父です（ヨハネ 20:17）。新しい命を得させることで（ヨハネ 1:12-13）、御子と霊的に結婚することで（イザヤ 54:5；黙 21:9）、恵みによる子とされることで（ロマ 8:17）です。神はすべての被造物、特に、人類の父です（マラキ 2:10）。

④ 全能の神を信じるという告白は、神の証しされたことを受け入れ、神が真実であることを確かにするということです（ヨハネ 3:33）。神が行われたことについてよくよく考える時、聖霊さまは神の恵みを知るようにさせます（Ⅰコリント 2:12）。

その時、彼は、信仰によって神の子を受け入れるようになります。それから、その人は、自分が神の子供になったことを安全の中で結論を出せます（ロマ 8:16）。ところが、その人の信仰は、神の証しにかかっているのです。その人は、父の偉大な愛をほめたたえるでしょう（Ⅰヨハネ 3:1-2）。

⑤ また、全能の神を信じるという告白は、どのような状況の中でも父なる神に信頼し、献身することを意味します（詩 37:5、Ⅰペテロ 4:19,5:7）。私たちは何を食べようか、飲もうか、あるいは、着ようかについて心配してはなりません。天の父が、私たちに必要すべてを供給してくださるからです。涙の谷間を通る時も苦難と困難を益に変えさせてくださるでしょう。従って、信頼し喜ぶことです（ハバクク 3:17-18）。

神の全能の力によって難しいことや不可能なことはありません（エレミヤ 32:17）。アブラハムが神をどのように信じましたか。彼は「神は死者をも生か

し、無いものを有るもののようにお呼びになる方」(ロマ 4:17)と信じました。

「約束されたことを成就する力があることを堅く信じ」(ロマ 4:21)ました。神は喜んでそのことを行える真実な神です。

イエスさまはどのように語られましたか。「あなたがたが悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましよう。」(マタイ 7:11)と語られました。従って、まことの神の民は、神の全能さと、真実さ、喜んで行われることについて、疑ったりしてはならないのです。